



平成 29 年 3 月発行
企画・編集／NPO法人三内丸山縄文発信の会
(あおもり JOMON プロモーション事業)
イラスト／佐藤広則
発行／青森県世界文化遺産登録推進室
〒030-8570 青森県青森市長島 1 丁目 1-1
TEL:017-734-9183 FAX 734-8128

J O M O N B O O K

縄文ブック
—北海道・北東北の縄文遺跡群—

◎もくじ◎

世界に伝えたい縄文文化	2
What's JOMON?	4
北海道・北東北の縄文遺跡群	10
青森県の縄文遺跡	12
縄文文化を未来へ!	28
北海道・岩手県・秋田県の縄文遺跡	30
「縄文文化の人類史的価値とは?」 菊池徹夫	32



世界に伝えたい縄文文化

◆日本が誇る縄文文化がここにある

今から約1万5千年前、氷河期が終わるとともに日本列島で始まった縄文文化は、人々が狩猟・漁労・採集により定住生活を送り、自然とともに生き、様々な環境の変化に適応しながら一万年以上も続いた世界でも珍しい文化です。

三内丸山遺跡をはじめとする、北海道、青森県、秋田県、岩手県の17資産からなる「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、縄文文化の素晴らしさを伝える顕著な普遍的価値を持つ遺跡として、世界文化遺産登録を目指しています。



特別史跡三内丸山遺跡(青森市)

◆世界遺産は、人類共通の「宝もの」

世界遺産とは、人類の歴史を伝える遺跡や建物、貴重な自然など、後世に残していくべき人類共通の宝です。過去から受け継いだかけがえのない宝を世界で守るため、ユネスコにより「世界遺産条約」(正式名称「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」)が1972年に定められました。この条約に基づき登録されたものが「世界遺産」となります。

世界遺産登録には厳しい審査があります。顕著な普遍的価値を証明できること、

将来にわたり守られる仕組みが整っていること、などの要件を満たさなくてはなりません。そして登録後も、その国や地域は、それらの遺産を大切に守り、未来へ引き継いでいくことが求められます。



◆世界遺産の種類

文化遺産

価値の高い遺跡や建造物、文化的景観など。

<世界>

●ストーンヘンジ、エーヴベリーと関連する遺跡群(イギリス)

●ナスカとバルバの地上絵(ペルー)

●万里の長城(中国)など

<日本>

●法隆寺地域の仏教建造物(奈良県)

●富士山―信仰の対象と芸術の源泉(山梨県、静岡県) など



ストーンヘンジ(イギリス)

自然遺産

特に価値が高いとされる地形や自然風景、生態系、絶滅の心配がある生物のいる場所。

<世界>

●グランド・キャニオン国立公園(アメリカ)

●グレート・バリア・リーフ(オーストラリア)

●バイカル湖(ロシア) など

<日本>

●白神山地(青森県、秋田県)

●屋久島(鹿児島県)

●知床(北海道)



グランド・キャニオン国立公園(アメリカ)

複合遺産

文化遺産と自然遺産の両方の価値を持っているもの。

<世界>

●マチュ・ピチュの歴史保護区(ペルー)

●ギョレメ国立公園とカッパドキアの岩窟群(トルコ)

●ウルル・カタ・ジュタ国立公園(エアーズロック)(オーストラリア) など

<日本>

登録なし



マチュ・ピチュの歴史保護区(ペルー)

What's JOMON?

縄文文化の始まり

1万5千年前、急激な温暖化により日本列島ではドングリ類やクリ・クルミが実る豊かな落葉広葉樹の森が広がり、海面の上昇や降雨により運ばれた土砂の堆積によって魚介類が豊富に生育できる地形や環境が形成されました。

便利な道具の発明

土器

土器の発明によって、食料の煮炊きや貯蔵が可能となり、食生活に大きな安定をもたらしました。



日本最古級の土器片 / 約15,000年前
(大平山元遺跡・外ヶ浜町)



円筒下層式土器 / 約5,600年前
(三内丸山遺跡・青森市)



釣り針
(東道ノ上3遺跡・東北町)



亀ヶ岡式土器 / 約3,000年前
(亀ヶ岡石器時代遺跡・つがる市)



矢の先の石ぞく
(三内丸山遺跡・青森市)

弓矢

遠くからでも安全に獲物をねらえるようになりました。

釣り針

釣り針や銚など漁労具の開発が進みました。

ムラの出現

たて穴住居

地面を掘り下げて床を作り、柱を立てて屋根を支えた建物は、本格的な家の始まりです。



土屋根の復元たて穴住居(三内丸山遺跡・青森市)

ムラ

人々の暮らしは獲物を追って移動する生活から、安定した定住の生活へと大きく変化しました。やがて生活の拠点であるムラが出現しました。ムラには住居や墓、貝塚などが計画的に作られました。

三内丸山遺跡の当時のムラの様子(推定復元)



What's JOMON?

縄文人の生業

縄文人は、四季折々の豊かな自然の恵みを巧みに利用し、食料を主に狩猟・採集・漁労により得ていました。また、食料を貯蔵・保存する技術も同時に開発されました。

狩猟

ヤリや弓矢、落とし穴を使い、シカやイノシシなどの獲物を捕らえていました。



出土した動物の骨
(三内丸山遺跡・青森市)



底面に杭の跡がある落とし穴(風張1遺跡・八戸市)

漁労



丸木舟に乗り、釣りやモリで突いて魚を獲っていました。また、網も使われていました。



出土した魚の骨(三内丸山遺跡・青森市)



動物の骨で作ったモリ先(左)と組合せ式釣り針(右)
(長七谷地貝塚・八戸市)

採集

春は山菜、夏は貝類、秋はキノコや木の実など季節の旬のものを集めていました。木の実には栄養分が多く保存もしやすい大事な食料でした。



出土したクリ(三内丸山遺跡・青森市)



キノコ形土製品(近野遺跡・青森市、葦窪遺跡・八戸市、妻ノ神1遺跡・五所川原市、泉山遺跡・三戸町)

貯蔵・加工

木の実などの食料は、フラスコのような入り口がせまい穴を掘り、そこに貯蔵しました。木の実をすりつぶす、すり石やたたき石などの道具も見つかっています。



すり石・たたき石・石皿(三内丸山遺跡・青森市)



大型の貯蔵穴(三内丸山遺跡・青森市)

What's JOMON?

豊かな精神世界

縄文遺跡からは祈りやマツリに使われたとされる道具が多数出土しています。豊穡や狩りの安全、供養などの儀礼や祭祀の道具として用いられたと考えられます。



国宝・土偶(合掌土偶)
(風張1遺跡・八戸市)

土偶

粘土で人の形を表したもので、ほとんどの場合壊れた状態で見つかります。祈りやマツリに使う道具や、病気やケガを治すために身代わりに使ったなど諸説あります。



重要文化財・土偶(大型板状土偶)
(三内丸山遺跡・青森市)



重要文化財・土偶(遮光器土偶)複製
(亀ヶ岡石器時代遺跡・つがる市)

縄文のこころ

ミニチュア土器

土器を小型化したものが見つっています。



ミニチュア土器(三内丸山遺跡・青森市)

手形・足形付土版

粘土に子どもの手や足を押し付けた土版で、お祝いやお守りなどに使われていたと考えられています。



手形・足形付土版(大石平遺跡・六ヶ所村)

祈りの場

環状列石

環状列石(ストーン・サークル)はたくさんの石を円形に並べたもので、二重、三重に輪を重ねたものや、小さな円をたくさん集めたものなどいろいろあります。お墓や、マツリや儀式を行った場所と考えられています。



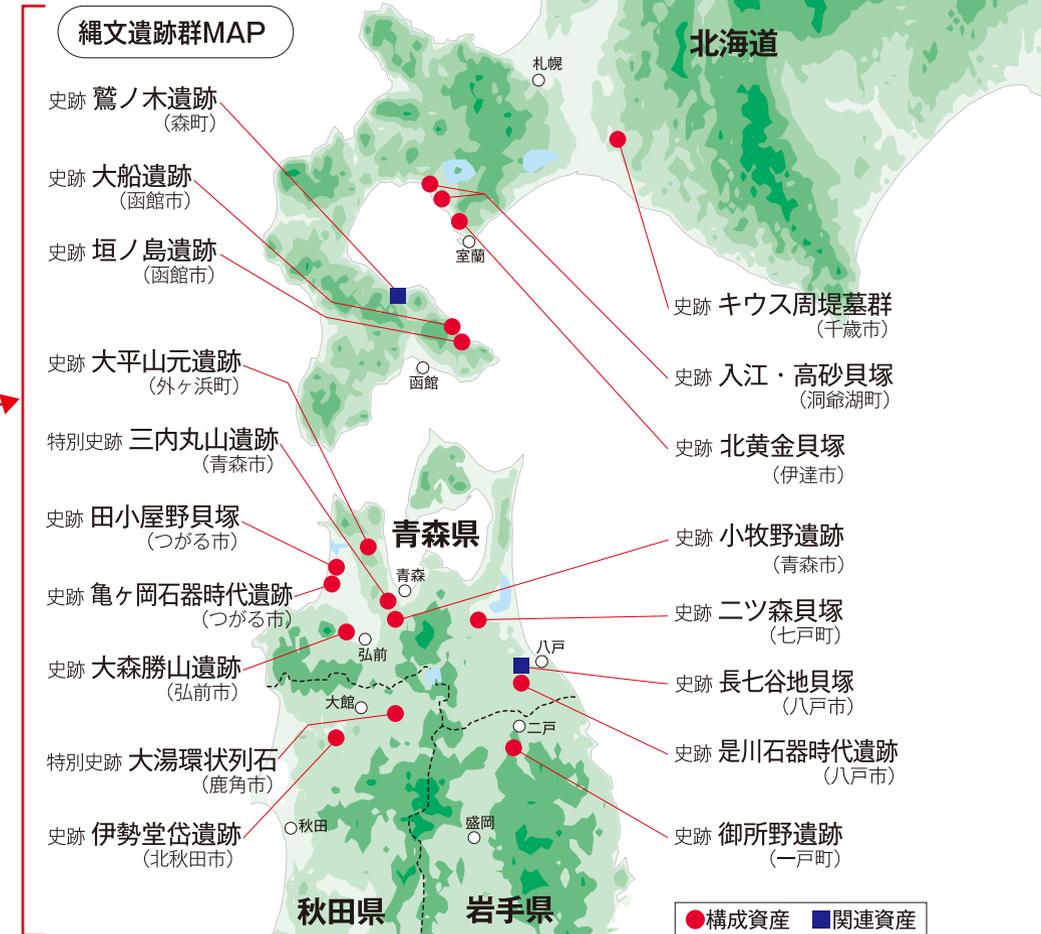
三重の輪が重なる環状列石(小牧野遺跡・青森市/直径約55m)



やや楕円形の環状列石(大森勝山遺跡・弘前市/長径約48m)

北海道・北東北の縄文遺跡群

北海道・北東北の縄文遺跡群は、国が指定する特別史跡や史跡で構成され、縄文文化の内容を示す貴重な遺跡です。



縄文時代と世界史の比較年表

年代	紀元前	約 13,000年	約 9,000年	約 5,000年	約 3,000年	約 2,000年	約 1,000年	約 300年
日本の 主なできごと	旧石器時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代	弥生時代
	・細石器文化が広がる	・土器や弓矢の使用が始まり、定住化が進み、ムラが出現する	・気候の温暖化が進み、海水面が上昇する（縄文海進） ・貝塚が出現する	・円筒土器文化の成立 ・集落の数が増え、地域を代表するような拠点集落が現れる ・漆の利用技術の発達	・大規模な拠点集落が発達する ・ヒスイや黒曜石等の交易が盛んになる	・大規模な拠点集落は減少し、集落の拡散化、分散化が進む ・環状列石が出現する	・亀ヶ岡文化が栄える ・透光器土偶や土面など祭祀の道具が多く作られ、装身具類も多様となる ・北部九州に稲作が伝来する	・吉野ヶ里遺跡が栄える
世界の 主なできごと	・北京原人が活躍する ・ラスコー洞窟の壁画が描かれる	・トルコで最古の神殿が造られる（ギョベクリ・テペ）	・長江下流域で水稲耕作が始まる ・メソポタミアで農耕が始まる	・中国文明の始まり ・メソポタミア文明の始まり	・インダス文明の始まり ・クフ王のピラミッド建設	・ハンムラビ法典ができる ・殷王朝の成立 ・ツタンカーメン王即位	・春秋時代 ・戦国時代	・秦の中国統一 ・コロッセウム建設
縄文遺跡群 北海道・北東北の		・大平山元遺跡	・垣ノ島遺跡（～後期）	・北黄金貝塚 ・三内丸山遺跡（～中期） ・田小屋野貝塚（～中期） ・二ツ森貝塚（～中期） ・入江貝塚（～後期） ・是川石器時代遺跡（～晩期）	・大船遺跡 ・御所野遺跡	・キウス周堤墓群 ・高砂貝塚（～晩期） ・小牧野遺跡 ・大湯環状列石 ・伊勢堂岱遺跡	・大森勝山遺跡 ・亀ヶ岡石器時代遺跡	

さん ない まる やま
三内丸山遺跡
 青森市 約6,000年前～4,000年前
 特別史跡指定／2000年



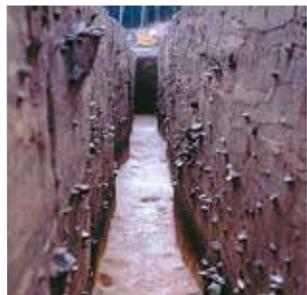
現在の大型掘立柱建物(復元)と大型たて穴住居(復元)

日本最大級の集落跡

2,000年もの長期にわたり生活が営まれた日本最大規模のムラの跡で、たて穴住居、墓、掘立柱建物、盛土、貯蔵穴、道路などが計画的に配置されています。また、土器や土偶など、膨大な量の遺物が良好な状態で出土しました。

北陸産のヒスイが見つかるなど、他の地方との交流や交易があったこともわかっています。当時の北海道・北東北における中心地だったと考えられています。

MEMO 出土した土偶は2,000点を超え、全国1位の出土数を誇ります。同じ形のものはなく、1つ1つが個性的な表情をしています。



約2.8m積み重ねられた盛土



クルミが入っていた「縄文ポシェット」

Q&A

Q 大型掘立柱建物はどれくらい大きいの？

A 出土した柱穴の直径は約2m、深さ2mを超える大型のもので、中から直径約1mのクリの柱が見つかりました。現存するクリの木の調査や柱が立っていた部分の土質分析から、高さ20m近くの大型の建物だったと考えられています。



大型掘立柱建物の柱穴(三内丸山遺跡)

Q どんなものを食べていたの？

A 食料の約80%は植物質のものと考えられ、中でもクリやクルミが多く食べられていたようです。魚の骨はブリやサバなどを中心に約50種類出土しています。そのほとんどが現在も陸奥湾で獲れるものです。動物については全国的にはイノシシやシカが多いのですが、三内丸山遺跡ではノウサギやムササビなどの小動物が多かったようです。

関連展示施設

縄文時遊館



三内丸山遺跡の玄関口。国重要文化財の縄文ポシェットや大型板状土偶などを収蔵展示した「さんまるミュージアム」のほか、縄文シアターや体験工房などがあります。

ここに注目! 当時の環境や食生活など、人々の暮らしがわかる出土品を数多く展示しています。

開館日時 6月～9月／9時～18時(10月～5月／17時まで) 年末年始休館
 入館料 無料
 住所 青森市三内丸山305
 電話 017-781-6078



【遺跡に関するお問い合わせ】
 青森県教育庁文化財保護課
 TEL 017-781-6078



こまきの 小牧野遺跡

青森市 約4,000年前
史跡指定 / 1995年



複数の環で構成された環状列石



縦横交互に並べられた組石



400点以上見つかった三角形岩版

精神文化を伝える巨大な環状列石

優れた土木技術により作られた完成度の高い環状列石を中心とした遺跡です。環状列石は3重の環で構成され、さらにその外周には4重目の環を成す部分が配置されており、全体で直径約55mの大きさです。

たて穴住居跡や土坑墓なども見つかっており、また、土偶や三角形岩版などマツリに使われたと考えられる道具も見つかっています。

MEMO 環状列石の環は、平らな石が縦横交互に規則正しく並べられています。このような造りの列石は全国的にも珍しく独特なものです。

Q&A

Q 環状列石の石はどこから運んだの？

A 現在見つまっている約2,900個のほとんどが安山岩で、遺跡から東に500m~1km程離れた堤川上流の一带から運ばれたものと考えられます。1個あたりの平均重量は約10.8kgです。

Q 環状列石の用途は何だったの？

A 環状列石の内側には、多くの人が集えるような広さ約500㎡の広場があり、「祭祀場」の性格を持っていたと考えられます。また、埋葬用の土器も見つかっており、墓地としても使われました。



環状列石中央の広場

関連展示施設

縄文の学び舎・小牧野館



閉校した旧野沢小学校の校舎を活かした展示収蔵施設です。出土品やパネルにより遺跡の発掘調査の成果や縄文人の暮らしなどをわかりやすく紹介しています。

ここに注目!

発掘体験コーナーや土器復元コーナー、ストーンヘンジの一部の実物大模型などがあり、大人も子どもも楽しく学ぶことができます。

開館日時 9時~17時 年末年始休館
入館料 無料
住所 青森市野沢沢部108-3
電話 017-757-8665



【遺跡に関するお問い合わせ】
青森市教育委員会文化財課
TEL 017-761-4796



おお だい やま もと 大平山元遺跡

外ヶ浜町 約15,000年前
史跡指定 / 2013年



上空からの眺め(○印は遺跡のある場所)



石鏃



日本最古級の土器片

日本最古の土器片が出土

旧石器時代の特徴を持つ石器群と共に、日本最古の土器片と矢じりが出土しています。

土器に付着していた煮炊きの痕(炭化物)を調べたところ、約16,500年前のものである可能性が指摘されています。土器片は縄目の文様などの装飾がない無文のもので、最古の土器の特徴といえます。



大平山元遺跡での矢じりの発見により、弓矢の出現は、土器の出現とほぼ同時期にまで遡ることがわかりました。

Q&A

Q 日本最古の土器は
どんな形をしていたの？

A 出土した土器片の数が少ないため正確な形はわかりませんが、小型で底の平らな土器だったと考えられています。

Q どんな住居に
住んでいたの？

A 生活したと思われる空間に柱穴やくぼみがないことから、たて穴住居とは違い、地面を掘らない構造のものと考えられます。



遺跡発掘の様子

関連展示施設

大山ふるさと資料館



旧大山小学校の校舎を活用した資料館。大平山元遺跡の出土品を展示した遺物展示室のほか、外ヶ浜町の民俗資料を紹介する3つの展示室があります。

ここに注目!

日本最古級の無文土器の土器片を見ることができます。土器片には煮炊きの痕のすすやおこげも黒く残っています。

開館日時 9時～16時 月曜日(祝日の場合その翌日)・年末年始休館

入館料 無料

住所 外ヶ浜町蟹田大平沢辺34-3

電話 0174-22-2577



【遺跡に関するお問い合わせ】
外ヶ浜町教育委員会社会教育課
TEL 0174-31-1233



かめ が おか せつき じ だい 亀ヶ岡石器時代遺跡

つがる市 約3,000~2,300年前
史跡指定 / 1944年



しゃこちゃん広場

有名な遮光器土偶の出土地

美しい土器や土偶が数多く出土した遺跡です。遺跡中央の台地上に住居跡や墓域があり、その南北にある低湿地から遺物が多数出土しています。中でも、1887年に出土した大型の遮光器土偶は有名で、その造形は海外でも高く評価されています。ほかにも漆塗りの土器や、らん胎漆器と呼ばれる植物性のカゴ、ヒスイ製の勾玉なども多数出土しています。



色鮮やかな彩文鉢形土器



遮光器土偶(複製)

MEMO 大型の遮光器土偶は、その名の由来となった土偶です。大きな目の表現が雪のまぶしさをさけるための遮光器(サングラス)に似ていることから名づけられました。

Q&A

Q 土器や土偶に塗られた赤漆の原料は何？

A 生漆にベンガラや水銀朱を混ぜると赤漆になります。亀ヶ岡の人々は、砕くとベンガラになる赤い石を粉にして漆に混ぜ、土器などに塗っていたと考えられています。ベンガラは津軽半島の今別周辺で採取することができます。

Q 亀ヶ岡式土器の特徴は？

A 亀ヶ岡式土器は、粗製土器と精製土器に大別されます。粗製土器は主に煮炊き用、精製土器は装飾的な文様や赤漆が施されることが多く、マツリに使われたと考えられています。



精製土器

関連展示施設

つがる市縄文住居 展示資料館カルコ



亀ヶ岡遺跡を中心に、つがる市内の遺跡の出土品を多数展示しています。復元たて穴住居など縄文の暮らしを再現したコーナーでは、古代の言葉を語りかける人形が迎えてくれます。

ここに注目!

遮光器土偶の複製のほか、造形と美しい模様が特徴の注口土器や壺型土器など、当時の高い技術をうかがわせる出土品を見ることができます。

開館日時 9時~16時 月曜日(祝日の場合その翌日)・年末年始休館
入館料 大人200円ほか
住所 つがる市木造若緑59-1
電話 0173-42-6490



【遺跡に関するお問い合わせ】
つがる市教育委員会社会教育文化課
TEL 0173-49-1194



たごやの 田小屋野貝塚

つがる市 約6,000~4,500年前
史跡指定 / 1944年



現在の様子



約6,000年前の人骨



ベンケイガイ製の貝輪

縄文時代のブレスレット工場

日本海側にある全国でも数少ない貝塚です。ヤマトシジミなどの貝類を中心に、フナやサバなどの魚骨、マガン・カモなどの鳥骨、ノウサギ・カモシカのほか、クジラといった大型ほ乳類の骨も見つかっています。また、ベンケイガイ製貝輪(ブレスレット)が約60点出土しています。いずれも未完成品や破損品であることから、貝輪の加工場だったと考えられます。



北海道の遺跡からもベンケイガイ製の貝輪が出土し、一方、田小屋野貝塚からは北海道産の黒曜石が見つかることから、生産と流通、津軽海峡を越えた交易があったと考えられます。

Q&A

Q どうして現在は内陸なのに貝塚があるの？

A 遺跡の眼下には、当時、「古十三湖」と呼ばれる広大な内海が広がっていました。水産資源の豊富な場所を利用したものと考えられます。



「縄文海進」最盛期(約7000~6000年前)と田小屋野貝塚・亀ヶ岡遺跡(「つがる市の環境変遷と縄文遺跡」(社・佐野2015)より)

Q 出土した人骨から何がわかるの？

A 貝塚から約6,000年前の人骨が見つかりました。日本海側東北部での出土は珍しい例です。骨盤の観察から出産歴のある成人女性の人骨であることがわかっています。

関連展示施設

つがる市木造 亀ヶ岡考古資料室



田小屋野貝塚や亀ヶ岡石器時代遺跡からの出土品をはじめ、地元の方が集めた縄文遺跡の出土品を多く展示しています。

ここに注目!

田小屋野貝塚出土の石槍や大型の石棒のほか、亀ヶ岡遺跡出土の遮光器土偶や漆塗りの土器などを見ることができます。

開館日時 9時~16時 月曜日(祝日の場合その翌日)・年末年始休館
入館料 大人200円ほか
住所 つがる市木造館岡屏風山195
電話 0173-45-3450



【遺跡に関するお問い合わせ】
つがる市教育委員会社会教育文化課
TEL 0173-49-1194



お お も り か つ や ま 大森勝山遺跡

弘前市 約3,000年前
史跡指定 / 2012年



現在の様子(再現された環状列石)



発掘調査風景



円盤状石製品

岩木山のふもとの環状列石

全国でも数少ない約3,000年前の環状列石で、整地と盛土を行った台地上に造られています。

長径48.5m、短径39.1mのやや楕円形です。直径約13mもある大型たて穴住居跡や捨て場などのほか、土器や石器、祭祀用の岩版や石剣なども出土しています。

大型たて穴住居跡と環状列石を結ぶ直線上には岩木山があります。



円形に加工された円盤状石製品が約250点も出土しています。環状列石に関するマツリの道具と考えられています。

Q&A

Q この環状列石は
どのように作られたの？

A 丘陵を平坦に整地した後、円丘状に土を盛り、その周りに77基の組石を配置して作られました。組石には円形や、一列に並べたもの、集合させたものなど様々な形があります。

Q 大型たて穴住居の
特徴は？

A 環状列石から南西約100m離れたところに位置し、中央には直径約1.4mの石で囲まれた炉の跡があります。炉の周りには4本の大きな柱の穴が見つかりました。



大型たて穴住居跡

関連展示施設

弘前市裾野地区 体育文化交流センター



建物に入っすぐのロビーの一角に、大森勝山遺跡や、十腰内遺跡、砂沢遺跡など津軽地域の縄文～弥生時代の遺跡を紹介した展示コーナーが設置されています。

ここに
注目!

大森勝山遺跡の土器と石器、発掘当時の写真が展示されています。

開館日時 9時～21時 月曜日(祝日の場合その翌日)・年末年始休館

入館料 無料

住所 弘前市大字十面沢字轡8-9

電話 0172-99-7072



【遺跡に関するお問い合わせ】
弘前市教育委員会文化財課
TEL 0172-82-1642



ふたつもり 二ツ森貝塚

七戸町 約6,000年前～4,000年前
史跡指定 / 1998年



復元したたて穴住居



積み重なった貝塚の層

東北地方有数の大規模な貝塚

最大規模な貝塚を伴う集落遺跡です。

貝塚の層からは地球規模で起こった海進海退の様子を読み取ることができます。ヤマトシジミ・ハマグリなどの貝類、スズキ・マダイなどの魚骨、ハクチョウ・カモなどの鳥骨、シカ・イノシシなどの獣骨、骨角器などが出土したほか、丁寧に埋葬されたイヌの墓も見つかっています。

ここから出土した鹿角製櫛には見事な装飾が施されており、当時の人々の製作技術の高さを伺わせます。その他にもクジラの骨で作られた青竜刀形骨器が出土しており、いずれも県重宝に指定されています。



彫刻を施した鹿角製櫛

Q&A

Q なぜ、海から離れた場所に貝塚があるの？

A 縄文時代の早い時期は温暖化のために海水面は今よりも5mほど高く、この場所も当時は海岸線近くで、貝が容易に採ることができたと考えられています。

Q イヌのお墓はなぜ作られたの？

A 縄文人はイヌを大事にしました。番犬だったり、獲物を見つけて追い込む役目をする狩猟のパートナーだったりしたのかもしれません。



埋葬されたイヌの骨

関連展示施設

七戸中央公民館



図書館や大ホールなどが設置された七戸町の生涯学習の拠点施設。2階のロビーに二ツ森貝塚の展示コーナーが設けられています。

ここに注目!

土器や石器、骨角器・貝殻などの遺物のほか、3Dプリンターで作成した鹿角製櫛など県重宝5点のレプリカを見ることができます。

開館日時 月～金 / 9時～21時(土・日 / 18時まで) 祝日・年末年始休館

入館料 無料

住所 七戸町森ノ上210

電話 0176-68-2920



【遺跡に関するお問い合わせ】
七戸町教育委員会世界遺産対策室
TEL 0176-58-5530



是川石器時代遺跡

八戸市 約6,000~2,300年前
史跡指定 / 1957年(追加指定2004年、2013年)



八戸市埋蔵文化財センター-是川縄文館

縄文の美を伝える遺物が多数出土

堀田遺跡、一王寺遺跡、中居遺跡の三遺跡からなり、中でも中居遺跡は亀ヶ岡文化を代表する遺跡の一つです。居住域、墓域、加工場、捨て場、祭祀場など多様な遺構が見つっています。美しい造形の土器や土偶も数多くあり、赤漆を塗った土器や木の皮で作られた容器も出土しています。



顔料で赤く染められた人骨



木胎漆器の出土状態

中居遺跡の沢地跡からは、トチのアク抜きをするための水さらし場が見つかりました。また、サケを獲ったと考えられる木製の三本ヤスも出土するなど、水場を利用した縄文人の暮らしが見えてきます。



Q&A

Q 何千年も前の木製品がなぜ残っているの？

A 中居遺跡の沢地跡からは捨て場が見つかりました。地下水が豊富で、空気につれることが少なく、木の実や骨、漆器などが腐らずに残っていました。



漆塗りのクシの出土状態

Q 是川縄文館に胸像がある泉山兄弟とは？

A 泉山岩次郎(兄)と斐次郎(義弟)により、1920年代から昭和の初めにかけて是川遺跡の発掘が行われました。両氏により出土品は大切に守られ、約5,000点が八戸市に寄贈されました。

関連展示施設

八戸市埋蔵文化財センター-是川縄文館



是川石器時代遺跡や風張1遺跡など、八戸市内の遺跡からの出土品や発掘成果について展示しているほか、体験学習や縄文講座なども開催しています。

ここに注目!

「漆の美」のコーナーでは、中居遺跡出土の木胎漆器、らん胎漆器、土器などが多数展示されています。

開館日時 9時~17時 月曜日(祝日の場合その翌日※第1月曜は開館)・年末年始休館
入館料 大人250円ほか
住所 八戸市是川横山1
電話 0178-38-9511



【遺跡に関するお問い合わせ】
八戸市埋蔵文化財センター-是川縄文館
TEL 0178-38-9511

縄文文化を未来へ！

わたしたちも縄文を伝える活動を続けています！

一般社団法人 三内丸山応援隊(青森市)

100名を超えるボランティアの皆さんが、三内丸山遺跡の案内ガイドや、勾玉や土偶作りといった縄文体験を教えています。そのほかにも、遺跡内外で行われるさまざまなイベントにも参加し、縄文文化を広める活動を行っています。

【問】一般社団法人 三内丸山応援隊
TEL 017-783-3339



NPO法人 三内丸山縄文発信の会(青森市)

縄文の最新情報を日英併記で紹介する隔月刊『縄文ファイル』の発行や、講師を招いて「縄文塾」の実施、毎年秋に行う「三内丸山お月見コンサート」などのイベントを開催し、世界にむけて縄文の魅力を発信しています。

【問】NPO法人 三内丸山縄文発信の会
(企画集団 ぶりずむ内) TEL 017-773-3477



弘前縄文の会(弘前市)

縄文についての勉強会やイベントを行うほか、各地の縄文遺跡や施設見学により、縄文を学び魅力を発信する活動を行っています。

「大森勝山じょうもん祭り」では、岩木山の麓に抱かれた自然の中で縄文文化を体感できます。

【問】弘前縄文の会
TEL 0172-32-9272(今井会長宅)



八戸縄文保存協会(八戸市)

是川縄文館での行事の企画やボランティアの支援など、縄文文化の普及啓発活動を行っています。主催する「これかわ縄文まつり」は、体感コーナーやフードメニューも充実。地域一体となった保存・活用に取り組んでいます。

【問】八戸縄文保存協会(八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館内) TEL 0178-38-9511



一般社団法人 小牧野遺跡保存活用協議会(青森市)

小牧野遺跡の出土品などを展示した縄文の学び舎・小牧野館や、遺跡に隣接する小牧野の森・どんぐりの家の管理・運営を行っています。遺跡での四季折々のイベントや、縄文文化に触れる企画展の開催、多彩なワークショップにより縄文を満喫できます。

【問】一般社団法人 小牧野遺跡保存活用協議会
TEL 017-757-8665



NPO法人 つがる縄文の会(つがる市)

亀ヶ岡石器時代遺跡と田小屋野貝塚の情報発信やPR活動を行っています。「JOMON亀ヶ岡遺跡まつり」や「田小屋野貝塚ウォーク」では地域一体となりイベントを盛り上げるほか、高校生ボランティアガイドの育成など、地域の宝を守り、活用する取り組みを進めています。

【問】NPO法人 つがる縄文の会
TEL 0173-42-2218(川嶋理事長宅)



史跡大森勝山遺跡 保存活用推進会議(弘前市)

地元地区の9町会や民間団体、企業、行政が連携・協力して大森勝山遺跡の保存・活用や、世界遺産登録を推進する活動を行っています。

例年8月には、遺跡を会場として「大森勝山じょうもん祭り」を開催しています。

【問】弘前市教育委員会文化財課
TEL 0172-82-1642



「ニツ森貝塚」 世界遺産をめざす会(七戸町)

地元の方たちが中心となって、史跡公園の草刈りや、復元たて穴住居の燻蒸、清掃などの活動を行っています。

また、ボランティアガイドの会としても遺跡の案内を行うなど、活躍の場を広げています。

【問】「ニツ森貝塚」世界遺産をめざす会
TEL 0176-56-4365(鎌本会長宅)



青森県の縄文遺跡と共に
世界遺産登録を目指す
北海道・岩手県・秋田県の縄文遺跡



キウス周堤墓群 (北海道千歳市)
史跡/約3,200年前

地面を丸く掘った土を周囲に積み上げてドーナツ状の堤を造り、内側を墓地にした周堤墓が8基あります。最大直径75m。世界の先史文化の中でも稀な構造です。

【見学施設】千歳市教育委員会埋蔵文化財センター
(千歳市長都 42-1 TEL 0123-24-4210)

【問】千歳市教育委員会埋蔵文化財センター



北黄金貝塚 (北海道伊達市)
史跡/約7,000年前~5,500年前

5つの貝塚を中心とした大規模な集落遺跡です。保存状態良好で貝類など遺物が多数出土しています。祭祀の場と考えられる水場遺構は稀少です。

【見学施設】史跡北黄金貝塚公園
(伊達市北黄金町75 TEL 0142-24-2122)

【問】史跡北黄金貝塚公園



入江・高砂貝塚(入江貝塚) (北海道洞爺湖町)
史跡/約5,500年前~2,800年前

猪牙製品といった北海道では入手不可能な遺物が発見されるなど、他地域との活発な交流や、漁労文化の発達を示す道具が数多く見つかっています。

【見学施設】入江・高砂貝塚館
(洞爺湖町高砂町 44 TEL 0142-76-5802)

【問】洞爺湖町教育委員会社会教育課 TEL 0142-74-3010



入江・高砂貝塚(高砂貝塚) (北海道洞爺湖町)
史跡/約5,500年前~2,800年前

入江貝塚と約600mほどの距離にあります。大規模な墓地もあり、長期にわたる環境の変化に適応した暮らしを示す重要な遺跡です。

【見学施設】入江・高砂貝塚館
(洞爺湖町高砂町 44 TEL 0142-76-5802)

【問】洞爺湖町教育委員会社会教育課 TEL 0142-74-3010



おおふね
大船遺跡 (北海道函館市)
史跡/約5,200年前~4,000年前

大規模な集落跡です。100棟を超えるたて穴建物跡からなる住居域、大規模な盛土遺構、墓や貯蔵穴を含む100基以上の土坑墓群が確認されています。

【見学施設】大船遺跡管理棟(函館市大船町575-1)

【問】函館市縄文文化交流センター TEL 0138-25-2030



かきのしま
垣ノ島遺跡 (北海道函館市)
史跡/約9,000年前~3,000年前

約6,000年もの長期定住を示す遺跡です。長さ160m以上のU字形の大規模な盛土遺構は国内最大級。「送り場」など祭祀・儀礼の場と考えられます。

【見学施設】函館市縄文文化交流センター
(函館市白尻町 551-1 TEL 0138-25-2030)

【問】函館市教育委員会文化財課 TEL 0138-21-3563



ごしょの
御所野遺跡 (岩手県一戸町)
史跡/約4,500年前~4,000年前

大規模な集落跡で、遺構から集落の構造が見えてきます。焼失した住居跡の調査から、たて穴住居は屋根を土で覆う構造だったことが明らかになりました。

【見学施設】御所野縄文博物館
(一戸町岩館御所野 2 TEL 0195-32-2652)

【問】御所野縄文博物館



おおゆ
大湯環状列石 (秋田県鹿角市)
特別史跡/約4,000年前~3,500年前

2つの大きなストーンサークル(万座、野中堂)を中心にした遺跡です。それを取り囲むように、掘立柱建物跡や貯蔵穴などが同心円状に配置されています。

【見学施設】大湯ストーンサークル館
(鹿角市十和田大湯万座 45 TEL 0186-37-3822)

【問】大湯ストーンサークル館



いせどうたい
伊勢堂岱遺跡 (秋田県北秋田市)
史跡/約4,000年前~3,700年前

4つのストーンサークルを主体とした遺跡です。土偶や動物形土製品、キノコ型土製品、岩版類、石剣類など祭祀で使用する道具も数多く出土しています。

【見学施設】伊勢堂岱縄文館
(北秋田市脇神小ヶ田中田 100-1 TEL 0186-84-8710)

【問】伊勢堂岱縄文館

縄文文化の人類史的価値とは？ ◎菊池徹夫

青森は縄文遺跡の宝庫、ことに三内丸山遺跡は秋田の大湯環状列石と並んで国の特別史跡、いわば遺跡の国宝だ。もちろん、亀ヶ岡石器時代遺跡や糸川石器時代遺跡は古くから全国に知られた著名な遺跡だし、小牧野遺跡や大森勝山遺跡のストーン・サークルは他に例を見ない。そこで、日本の縄文文化を代表する遺跡、日本を代表する文化遺産として、これら青森、秋田、岩手および北海道の代表的な縄文遺跡を選びすぐって世界遺産に推薦しよ

う、ということになった。

しかし、いかに日本国内で大事であろうと、いかに日本人が素晴らしいと叫んだところで、それだけで世界遺産として国の推薦を受け、さらにユネスコの登録が叶うわけではない。そのためには、より広く世界に通用する「普遍的な価値」や「人類史的意義」を認めてもらわなければならない。

では、縄文文化の「顕著で普遍的な価値」とは何だろう。世界に例を見ないほど優れ

た土器文化や、土偶などにうかがえる高い精神文化もさることながら、私は次の3つを考えている。第1は、それが西方の新石器文化のように本格的農耕・牧畜ではなく狩猟・採集・漁労と落葉広葉樹林での植物管理・初期的栽培によりつつ、じつに1万年にわたる長期間、定住集落を形成・維持した稀有の例であること。第2に、縄文社会が、世界にも稀な生物多様性に富む日本列島の自然と共生し、変動する環境に適応しつつ持続されたこと。そして第3に、縄

文人は戦争を行わなかったこと、である。

これらは、現代に生き未来に向かう人類に、じつに貴重なヒントを与えてくれる。さらにもう一つ、縄文文化こそは、弥生文化以降の日本人と日本文化の基層・基盤をなす、まさに「母なる文化」だ、ということ。

東アジアの日本列島で展開された、じつにユニークなこの先史文化は、世界史全体に新たなモデルを提供し、真に普遍的な人類史を再構築するうえで不可欠なものとなることを疑わない。

きくち てつお 縄文遺跡群世界遺産登録推進専門家委員会委員長

1939年函館市生まれ。早稲田大学文学部・東京大学文学部卒業。東京大学大学院人文科学研究科修士課程(考古学)修了。現在、早稲田大学名誉教授、まほろん(福島県文化財センター白河館)館長。著書『はじめての考古学』(朝日学生新聞社、2013)など多数。



<掲載図版提供先>

青森県教育委員会

青森県立郷土館

青森県埋蔵文化財調査センター

青森市教育委員会

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

八戸市博物館

弘前市教育委員会

つがる市教育委員会

外ヶ浜町教育委員会

七戸町教育委員会

北海道立埋蔵文化財センター

伊達市噴火湾文化研究所

洞爺湖町教育委員会

函館市教育委員会

一戸町教育委員会

鹿角市教育委員会

北秋田市教育委員会